

開花期のかん水で乾燥ストレスを防止！収量向上！

大豆は、開花期から登熟初期にかけて多量の水を必要とします。水分が不足し乾燥が進むと、花数の減少や落花、落莢による結実数の減少、百粒重の低下など、生育収量に大きく影響します。

これから無降雨期間が続き、土壌乾燥が進む場合には、かん水を実施し、着莢率の向上や、粒の肥大を図ることが重要です。

かん水の判断とタイミング

- ◎開花期以降に土壌表面が白く乾燥し、その先も降雨の見込みがない場合はかん水が必要です。
- ◎大豆の葉の直立と裏返りは乾燥ストレスを受けている目安です。



図 大豆の葉の直立と裏返りの様子

かん水の方法

- ◎水尻と暗渠を閉じて、ほ場周囲の明渠を利用し、かん水しましょう。
- ◎かん水はできるだけ朝夕の涼しい時間帯に行い、ほ場全体に水が行き渡ったら速やかに排水します。
- ◎30aを超えるほ場では3日間に分けて徐々にかん水を行います。
- ◎過度のかん水や、排水が不良なほ場でのかん水は湿害を招くので注意が必要です。
- ◎地下かんがい設備がある場合には、地下水位を40～50 cmに制御します。
- ◎この時期は他の作物も水を必要とする時期ですので、近隣の状況にも十分配慮した上で、かん水可能なほ場で実施します。

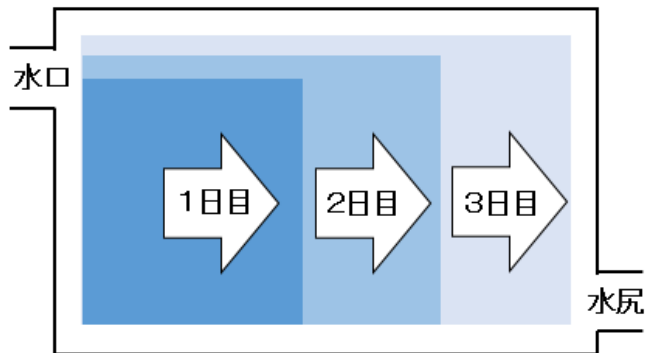


図 3日間に分けたかん水のイメージ

農作業事故と熱中症に要注意！声をかけ合い農作業事故を防止しましょう！

複数人での作業実施、施設や道具の点検、転落防止のための対策などを徹底しましょう。また、こまめな休憩と水分補給、ゆとりを持った無理のない作業を心掛けましょう。



<http://agrin.jp//> 会員登録を！

農業に役立つ情報がいち早く得られます。
会員登録でより詳細な情報が得られます。

